

いつも一緒 富山のペットたち

最近、飼いたいペットのランキングで、猫が犬を追い越して第1位になったということがあります。その理由として、▽犬のように散歩する必要がない▽トイレのしつけも猫の方が楽▽体が犬に比べて小さいので扱いが楽▽容易に手に入りやすいなど、忙しい人や体力がない人でも飼いやすいことが挙げられます。



保田 信一
トリ動物病院院長 (滑川市)

一方で、保護される子猫は、子犬に比べてまだまだ多いのが現状です。そこで今回は、子猫を保護した場合の対処方法についてお話ししたいと思います。子猫は、生後2週間ほどで目が開き、1カ月ほどで離乳食を食べられるようになります。この間は自分で体温を調節することがうまくできず、母猫の体温と温かい母乳で自分の体温を保っています。もし、生後間もない子猫を保護したら、まず、ホットカーペットやこたつ、携帯カイロ、ペットボトルにお湯を入れた湯たんぽなどを使って温かくしてあげてください。

保護した子猫育てるには



次に母乳を飲めないでいた子猫は、エネルギーが切れて低血糖の状態になりやすいので、砂糖

糖水や砂糖を加えて少し甘くした子猫用の粉ミルクを、十分温めて与えてください。この時ミルクの温度は、猫の体温と同程度の39度ほど(ぬるめのお風呂のお湯くらい)にしてください。ミルクの温度が低いと飲まないことが多いので注意が必要です。



また、母猫が子猫をなめて手

体温と栄養サポート

毎日体重チェック
また、母猫が子猫をなめて手

入れするように、ティッシュペーパーなどで刺激して、排尿、排便の手助けをしてあげてください。順調に行けば体重が増えてくるので、毎日体重を測って健康状態をみてあげてください。

保護された子猫。生後間もない猫は、自分でうまく体温を調節できない

寄生虫に注意

また母乳を十分に飲めずに育った子猫は免疫力が弱いので、一番かわいいうちに感染症で命を落としてしまうことや、親から回虫などの消化管内の寄生虫

道路でけいれんを起こし、冷たくなっていたところを保護された子猫。今ではすっかり元気になった

「いつも一緒 富山のペットたち」は、毎月第1木曜日に掲載します。